

# 平成28年度第3回天童市総合教育会議議事録

総務部総務課

- 1 日時 平成29年3月27日（月）  
午後1時30分から午後3時まで
- 2 場所 天童市立第四中学校
- 3 出席者
  - (1) 出席構成員  
天童市長 山本信治                      教育長 相澤一彦  
教育委員 井上正信                      教育委員 大貫紀代子  
教育委員 本田孝之                      教育委員 阿部真由美
  - (2) 説明のため出席した者の職氏名  
教育次長 中島伸一                      学校給食センター所長 東海林明夫  
学校教育課長 江川久美子              生涯学習課長 武田文敏  
教育総務課課長補佐兼庶務係長 矢萩 茂  
第四中学校校長 駒谷太郎              第四中学校教頭 花輪武彦
  - (3) 事務局職員の職氏名  
総務部長 武田 淳                      総務課長 森谷倫祥  
総務課課長補佐兼行政係長 熊澤 輝  
総務課行政係主査 丸子正彦
- 4 議事録署名員  
教育長 相澤一彦
- 5 次第
  - (1) 開会
  - (2) あいさつ
  - (3) 協議・運営事項
    - ア 中学生自主学習会事業の実施状況について
    - イ 平成29年度の教育行政に係る重点施策について
    - ウ その他
  - (4) 閉会

## 6 会議の内容

発言者	発言内容
熊澤課長補佐 (司会)	(かしわ学習会の視察)  1 開会  2 あいさつ (1) 山本市長あいさつ (2) 相澤教育長あいさつ
山本市長	3 協議・調整事項 それでは議長を務めさせていただきます。 まず、天童市総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定により、議事録署名員を指名させていただきます。 相澤教育長にお願いしたいと思います。
相澤教育長	はい。  (1) 中学生自主学習会事業の実施状況について
山本市長	1 番目「中学生自主学習会事業の実施状況について」事務局からお願いします。
熊澤課長補佐	ただ今、かしわ学習会を御視察いただきました。その感想や事業について、忌憚のない御意見をいただきたいと思いません。
山本市長	では、今ありましたとおり、それぞれの御感想などをお願いします。
本田委員	様子を見させていただき、数字も御提示いただいたのですが、リピーターの割合と実際の生徒数の中での参加する人としない人の割合は掴んでいるのですか。
駒谷校長	実際に名簿で追ってはおりませんが、毎回教室を見ていて、継続して参加している生徒が多いと思っております。

<p>本田委員</p>	<p>す。</p> <p>参加している生徒の半数くらいは、ずっと継続して参加しているということですね。参加していない生徒が良いとか悪いとか言うのではないのですが、この事業を見た中で子どもたちから、勉強に集中できる、周りの子どもたちが勉強しているので一緒に勉強する気になれる、お互いに教え合えるということを何人かから聞きましたので、すごく良い学習の仕方なのかなと私には見えました。そうだとすると、参加できるタイミングを作ってあげるともっと勉強しに来る子どもが増えるのではないかと思ったところです。参加する生徒を増やすことが目的かどうかは別にしましても、そういう経験ができることはとても良いのかなと思います。実際運営なさっている学校側にとっては、参加する生徒があまり増えたときにどうなるかという心配もあるとは思いますが、今のままでしばらく推移を見ながら今後どうしていこうか考えているところだとは思いますが、今見たり聞いたりして感じたところです。</p>
<p>山本市長</p>	<p>今の御意見については、一つの課題であるかとは思いますがけれども、まずは自主的に取り組む子どもたちがたくさん来ていると思いますので、これは素晴らしいことだと思っております。</p> <p>それでは、阿部委員お願いします。</p>
<p>阿部委員</p>	<p>先ほど拝見させていただいて本当に羨ましいくらい環境で学習しているなという印象を受けました。</p> <p>また、それぞれ来る時間と終わる時間をメモするような表も見受けられました。座る席は、それぞれ科目別では決まっています、それぞれの課題に取り組んでいるのですか。</p>
<p>駒谷校長</p>	<p>席次は決まっておりません。空いているところに座るようになっております。また、来る時間も部活が終わってからとか、始まる前とか、夏ですと運動会の準備などが終わってからとか様々です。</p>
<p>阿部委員</p>	<p>それぞれが課題としている問題について取り組んでいると</p>

<p>駒谷校長</p>	<p>は思いました。今日来た子どもたちについて、この科目のここが少し苦手だなという傾向が見えてくるとは思うのですが、終わる頃に先生方からワンポイントアドバイスみたいなものがあったりするのですか。それとも、あくまでもこれは個人で克服していくという感じなのでしょうか。</p> <p>そこにつきましては、とりあえずは自学自習で自分で課題を持ってきてそれを勉強すると、大体多くは長期休業中の課題が中心であります。テスト前ですとテスト範囲のものを持ってというふうになるのですが、今阿部委員からありましたように、さらにこう突っ込むにはどうしたらいいんだろうかということは来年度少し考えるとして、できることからやってみようかというところです。例えば、英検に多大な御支援をいただけるということになりますと、その英検のためのワンポイント講座のような形で空いている向かい側の部屋で指導することもできます。そのようなこともやれるかなということも話になっているところです。</p>
<p>阿部委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>山本市長</p>	<p>平成29年度からALTも倍増になって、この四中にも一人の専属のALTが配属になりますので、是非今みたいなことも含めて、特にヒアリングなんかは日本の英語ではなく、元々英語を使う方で雑談でもいいですからALTの方を利用していただきたいと思います。</p>
<p>駒谷校長</p>	<p>是非そのような形で。</p>
<p>山本市長</p>	<p>いろいろ工夫してやってみてください。 では、大貫委員お願いします。</p>
<p>大貫委員</p>	<p>大変良い環境の中で、友達も居ながら、自分のその日の宿題とか、今だったら春休みの課題をしっかりとやっていけるというのはすごく良いことだと思うし、子どもたち自身もお互いに教え合っている部分で、振り返りとか分からないところをお互いにクリアしていく、そういう力が付いてくるのかなと思いながら見ておりました。中には家に帰って、親御さん</p>

山本市長	<p>が働いていて、一人で過ごす時間が多い子どもたちもいるのではないかと思います。こういう場所をいっぱい作っていくことが子どもたちをひとりぼっちにさせない部分があり、すごく良いと思ったところです。また、部活を色々やっている子どもたちが部活の中だけの関わりではなくて、そういう学習をしながらも関わっていけるとするのは、すごく良いと思って見させていただきました。</p> <p>ありがとうございます。 では、井上委員お願いします。</p>
井上委員	<p>初めて見させていただきましたけれども、まず人数の多さに驚きました。色々な考えで学習会に参加しているとは思いますが、今6人に1人が貧困家庭にあるということが大きく社会的な問題になっております。そういう家庭の方は、満足な教育を受けられずに、それが教育の格差につながっているというようなことがありました。今日参加している子どもたちがそういう貧しい家庭ということではありませんが、中にはそういう子どもも恐らくいると思います。そういう意味でもすごく大きな市民の期待を施策にいかしていただきたいと思います。</p> <p>子どもたちの学習を見てみますと、基本的な知識の習得が中心となっているようです。というのは、中学生というのは最も知識を吸収する時なんですね。そういう時にこういう時間、空間があるということは、あの子どもたちにとってこの上ない幸せなことだと思います。今後も是非続けていただきたいと思います。ただ、子どもたちの時間が決まっておりますので、決まった時間の中でより効果的、効率的なものにするためにもある程度こちらの方で示していく必要があるのだと思います。そのためのアドバイザーというか、指導者などもこれから考えていく必要があるのかなと思います。</p>
山本市長	<p>ありがとうございます。 では、相澤教育長お願いします。</p>
相澤教育長	<p>感じたことは、3点あります。1つ目は、あのよう放課後残っていると当たり前のように感じるのですが、今のところ</p>

ろ四つの中学校が非常に落ち着いた中学校生活を送れているんですね。これが基本にあるということを私たちは確認して大事にしていかなければならないのではないかと。普通の中学校生活が落ち着いていないと放課後学習会をしようかとか、残るかとかそういう余裕もなくなりますし、逆に大変な生徒が俺も放課後学習会に来る、俺も土曜日来るんだと言って、騒いで歩くという状況も過去には私も経験しております。そういう落ち着いた学校生活、天童市が取り組んできた特別支援の考え方を大事に、一人一人を大事にして受け止めていく必要があると思ったところです。

2つ目は、今の子どもたちは、私の持論なのですがけれども、世帯の構成人数が少なくなって、勉強部屋はある、両親は忙しい、また、ひとり親家庭が増える、スマホを持って一人ぼつんと過ごしている子どもが多くなりました。今日見ると、友達と一緒に来て仲良く勉強するという姿があっという間と思えました。やはり連帯しながら、励みにならないと勉強もやる気が起きません。邪魔になるから一人で2時間勉強しろと言っても今の子どもはなかなかできない。友達も頑張るから自分も頑張ろうかという励ましの言葉があっという間と思ったところです。

3点目は、少し水を差すようになったら申し訳ないのですが感じたことは、生徒が多く集まった日が休日なんですね。だから、校長先生が遠慮がちに先生方に非常に協力していただいとありましたが、厳密に言えば教職員の勤務の方をどうしていくかというようなところですね。その辺のところ無理にならないような配慮をどうしていくかということを検討していただく、あるいは管理職がそういう配慮をすると継続できますよね。その辺が大変難しいかじ取りであるし、市としてもどういうやり方が良いか考えていきたいと思えます。その辺の勤務に対する配慮もお願いしたいと思います。いずれにしても、四中の大変な努力と御協力に感謝したいと思っており、充実させていただいたとうれしく思っております。ありがとうございました。

山本市長

感想も含めてお聞きしましたけれども、恐らく様々な課題が潜んでいるんだろうと思います。例えば、子どもたちがこういう環境になじんでいくようなベースを作っていくという

	<p>ことが大事だと思っております。天童市全体の底上げをするためには、そういう子どもたちも一緒に居るわけなので、そういうことを教育現場ではじかないで学習できるような方策を出していただきたいまた、先生方の負担が非常に増えるというよう状況があれば、色々と御相談をしていただきたいと思っております。現場だけではなかなか解決できないと思っておりますので、そういう時には教育委員会の方にどうぞ御相談いただいで。人が足りないからどんどん人を送りますよということにはならないと思っておりますけれども、そういう現場を知るということは、我々にとっても非常に勉強になります。そういう課題をどうやったら解決していくのかという方策も考えていきたいと思っておりますので、そういうことがあれば是非皆さんの方から遠慮なく教えていただきたいというふうに思います。</p> <p>皆さんから他にございませんか。無ければ次に進みます。</p>
駒谷校長	<p>ありがとうございました。今いただいた御意見を参考に進めたいと思っております。</p>
	<p>(2) 平成29年度の教育行政に係る重点施策について</p>
山本市長	<p>では、2番目「平成29年度の教育行政に係る重点施策について」説明を求めます。</p>
中島教育次長ほか	<p>(平成29年度の教育行政に係る重点施策について説明)</p>
山本市長	<p>それぞれの課の方から今説明がありましたが、皆さんの方から御意見・御質問がありましたらお願いします。</p>
井上委員	<p>大変細やかな説明をありがとうございます。学校教育について、4月になりますと幼稚園等の子どもたちが1年生になり、小学校6年生が中学校1年生になるのですが、色々な問題が出てくるのは、その1年生。小学校1年生、中学校1年生が多いというように統計上あるわけですが。確か昭和20年の始め辺りだったと思いますが、日本全体の傾向として小1プロブレムなどが問題になってきましたけれども、県の方で幼保小連携スタートプログラムというものを立ち上げまし</p>

<p>江川学校教育課長</p>	<p>た。それでカリキュラムを半年間、小学校では4月から9月まで、幼稚園で学んできた子どもたちがなじむ、ソフトランディング小学校にできるようにするためのカリキュラムをそれぞれの学校で作rinaさいという指導があったと思いますが、その辺について、市としては学校の方に指示や指導していくというものは何かありますか。</p> <p>幼保小連携のスタートプログラムについては、全小学校では理解をし、入れております。1年生が入ってきていきなり国語、算数というような時間割ではなく、幼稚園等で身に付けてきたことを十分にいかして、生活科を中心に学校生活に段差なく適応していけるようにという配慮とともに、教育課程の工夫と、その内容的な工夫と合わせて、健康課の方で行っている発達支援事業との連携を図って、特段の配慮が必要な子どもたちについては、就学児健診の時から連携を図って対応しております。</p>
<p>山本市長</p>	<p>他にありませんか。</p>
<p>大貫委員</p>	<p>特別支援を受けなければならない子どもたちがいるわけですが、そういう部分に関しての幼稚園等から小学校に来る情報などは、前よりも増えているのですか。</p>
<p>江川学校教育課長</p>	<p>9月に就学児健診がありますが、大変な多くの子どもたちの結構細やかな部分での情報を子育て支援課や健康課から事前にいただいております。就学児健診の段階で少し観察をした方がいいという子どもたちは、もうその時点で我々も把握していて、そこで手助けをする支援員もその情報を一緒に共有して、よく観察をしております。そして、就学児健診の一番最後のメニューの面談の時には、少し配慮が必要な子どもについては、もう一度面接させてくださいとお願いをしております、そこで相当スクリーニングが掛けられます。学校に入学する前にも各小学校が幼稚園に出向いて、また、幼稚園、保育園の方から来ていただいて十分な情報交換はしております。あと、その子その子の指導の記録などもいただいております、それも活用しております。</p>



山本市長	他にありませんか。
本田委員	教職員の先生方の健康増進事業について、通常健康診断をやっている、その健康診断を基に要精検とか、要治療とか色々書いてあると思いますが、学校としてそれを受けてその後どうなったのかという追跡調査や個人個人の指導を行っているのでしょうか。
江川学校教育課長	教職員の方の健康診断も法の下に1回受診をし、その結果は各学校、校長の方に届きます。もう一度検査をして健康状態を把握し、治療しなさい、何々しなさいという勧告がもちろん来るので、その結果を基に管理職の方では精検を受け、健康を保ちなさいという指導はします。そして、そういうふうに健康状態を保っていくことも教育で大切なことなので、教育委員会の教職員係の方でもそれは十分把握をして、受診を勧めております。今年度末では、再検査は、98パーセント完了しております。
本田委員	通常の企業でもそれを義務付けられているのですが、しないで終わってしまっているところが結構多いと伺っているところです。
江川学校教育課長	教職員にも一人一人健康診断表があり、例えば、肝臓に少しリスクがあるとすると、その職員に記録が付いていきますので、その職員が自分の学校に配置になれば管理職として当然把握はして、業務がオーバーワークにならないように声を掛けたり、配慮したりしております。
山本市長	どこの先生もみんな心配しなくてはいけませんね。
森谷総務課長	健康診断を受けさせる義務、再検査を促す義務があるのですが、そこから先は個人の判断となるところです。
本田委員	したということで大体終わってしまうところが多いので、そうならないようにしていただけたらと思います。
山本市長	他にありませんか。

<p>阿部委員</p>	<p>健康に関しての話をさせていただきます。9ページの重点施策の方に中学生貧血検査というものがあるのですが、こちらがどのくらいのペースで行われているのかということが気になっています。スポーツの世界では、パフォーマンスを最大限に発揮できるかは試合の2日前に何を食べるかで決まってくるというくらい食というのはとても大切であります。特に今学力の把握と分析という話で、その学習効果を上げるために脳に必要な栄養素がブドウ糖でありまして、炭水化物、例えば、パスタとか、お米などに含まれております。ただ、最近の子どもたちは、運動離れをしている子どもたちが多く、その子どもたちも運動をしている子どもたちと同じように食べてしまって肥満につながってしまったりとか、そういうこともあるかと思うのですが、朝御飯を食べてきていないという生徒がよくいると伺っております。その部分も含め、給食センターの方に貧血の検査の結果の情報を共有して、例えば、試験前には鉄分の多い献立を図るとか、そういった仕組みとか連携を図っていくのも、栄養があるものを与えるということのほか、学習効果を測る試験前に何を食べるかということもとても大切だと思います。それはとても大変なことだと思うのですが、食と栄養のバランスが崩れると自律神経が乱れて、人とのコミュニケーションが崩れていくという意味では、食文化を大切に、交換した情報をそれぞれの課で共有し合っていけば、先ほど教育長がおっしゃられた落ち着いた学校生活を送ることができると思います。</p>
<p>相澤教育長</p>	<p>青魚のDHAなどが脳の働きに良いということがあるので、そういったものを極力出すような献立を作るようなことはしているようですが、後で色々と聞いておきたいと思っています。</p>
<p>阿部委員</p>	<p>例えば、鉄分が豊富なほうれん草を食べても、ビタミンCが入っていないと、全部尿で流れてしまう。いかに体の中に抑えておくことが必要かということも大切だと思います。</p> <p>貧血検査は、どのくらいのペースで行われているのですか。</p>

江川学校教育課長	<p>中学生を対象として、9月に年1回実施しております。そして、これは任意となっております。法定の健康診断に必須の項目で入っているものではなくて、天童市が考えて入れている施策であります。思春期の貧血はここで見つかるというところがたくさんあります。しかし、少し課題もあって、今子どもたちは針を刺すということに非常に嫌悪感があったり、血を見るのがいやだということがあったりして、100パーセントではなくて、学校にもよりますが、平均すると70パーセントから90パーセントの率なんです。でも、そのくらい高い率で受けていて、本当に鉄剤を飲まなければいけないような重篤な貧血の子は、各学校その中で数名見つかっております。ですから、こういうことは、もっと周知をしていかなければいけないということが今年度の課題としてありましたので、来年度はもっと前向きに実施していきたいと思っております。</p>
阿部委員	<p>特に、女子生徒は月経とかもあり、ホルモンバランスで不順になってしまうと、子どもをつくる機能も低下してしまい良くないので、周知の方を是非していただきたいと思えます。</p>
相澤教育長	<p>1点よろしいですか。今阿部委員から指摘されたことは非常に大事なのですが、現場の中で何が大変かということ、ものすごい格差があるということなのです。食育についてもほけんだよりなどに書いて、今こういう生活をすると良いとか、睡眠はとか、丁寧に情報提供をしております。そして、それ以上のことをやっている御家庭と、全く関係ない、例えば貧血検査もどういうふうにするのか、貧血検査があるということも分からない、あるいは子どもがしなくてもいい、うるさいとか言うので、子どもの言うとおりにするという御家庭があり、そういう御家庭と体を大事にしなくてほと子どもと話し合っ申し込む御家庭との格差を埋めていく必要があるのだらうと思えます。</p> <p>江川課長からあったとおり、学校間で7割から9割の差があるのです。これは、御家庭による理解とか健康に対する考え方とか、もっと言うなら自己愛をどれだけ持っているかというようなところを育てていかなければならないと余計に感</p>

山本市長	<p>じております。</p> <p>私の方から。山形新聞の活用ということがあったのですが、これはどういう活用の仕方をするのですか。</p>
江川学校教育課長	<p>各学級1部ずつということなので、こちらでこう使いなさいということは、当面それほどにきつくは考えておりません。それぞれの学校の創造性というか、オリジナリティーというものがあります。また、素材から教材を作るというのがそもそも教師の仕事であり、それをどう教材化するかというところは、それぞれの学校の教育課程や子どもの実情に合わせる必要があります。活用例として考えられるのは、社会科であれば、18歳の選挙権などの政治問題の記事についての色々な考え方をみんなで議論をするとか、コラムにしても色々な学者の方が色々な方面から考え方を述べたりするのを取り上げて、自分たちでも考えを議論することができます。あとは、文章を書くということについて、論を展開するという文章の書き方。ニュース的な5W1Hの書き方もありますし、論説文のコラムや社説のような考えを展開するという使い方もあります。あと、文章でない写真とかデータとか表とかについては、そういうものを見て、どう情報を抜き出して自分で考えを持つか、あるいは他の人は自分とは違う、こういう見方があるのかということや学んだりというように社会的なものを見方、あと、考えを持つということの材料。あと、山形新聞ですから一番はなんといっても地域の素材がたくさん盛り込まれていますので、天童市の色々な特徴ある動きをあちこちから集めてきて、自分が住んでいるところだけでなく、他の地域でこういうことをやっていて、自分たちの活動をもっとこんなふうに進められるかもしれないというヒントにすることもできたり、というように色々なことが考えられます。ただ、基本学校に教材化はお任せするつもりではおりますが、ある程度色々な実践が出たところで、こちらからも吸い上げて市内に情報発信し、参考にさせていただくということは必要だと思っております。</p>
山本市長	<p>新聞協会の方で、新聞を活用した学習の取組に派遣するというような授業もやっているようですが。</p>

江川学校教育課長	<p>新聞に読み方授業というものに派遣しますと書いてあるので分かったんですけども、まだはっきりとどういうものかというものが来ていないので、県の補助金についてもそうなのですが、はっきり来たところで前向きに考えていきたいと思えます。</p>
山本市長	<p>どこまで効果があるかというのは中々分かりませんので、これも実験、実証ということも含めて、日新の基金を使わせていただきたいと思えます。</p>
相澤教育長	<p>去年と今年天童一中がN I Eの指定を受けて新聞を読ませる研究の委嘱を受けております。その前は三中が2年間受けました。その前は二中が2年間受けていて、ノウハウのベースになるものは各中学校にあると思えます。その辺をぜひ伸ばしていただきたいと思えます。</p>
山本市長	<p>はい、ありがとうございます。 他にございますか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>(3) その他</p> <p>(特段なし)</p> <p>4 閉会</p>